

三浦半島における生ニンニクの4月どり作型開発

温暖な三浦半島におけるニンニク栽培には、暖地系の早生大球種‘平戸’が有望品種です。‘平戸’を早植（9月下旬）するとともに種球の低温処理（5℃1ヶ月）またはトンネル栽培（ユーラックカンキ4号、12～3月被覆）と組み合わせることにより、4月上～下旬に収穫できます。

表1 早植4月どりでのトンネル被覆および種球低温処理の効果(品種：平戸)

試験区		生球重 (g)	鱗片数	大きさ別鱗片数			判定
低温処理 ^z	被覆 ^y			10g以上	5～10g	5g未満	
有	トンネル	89.3	8.0	4.9	2.1	1.1	◎
無	トンネル	77.8	9.2	5.0	1.3	2.9	○
有	無被覆	87.2	8.3	5.0	0.9	2.5	◎
無	無被覆	55.5	8.0	2.1	0.1	5.8	×

植付日：2009年9月24日、収穫日：2010年4月28日。^z植付前1ヶ月間5℃で種球を保管。^y12月3日～3月19日までユーラックカンキ4号を被覆。

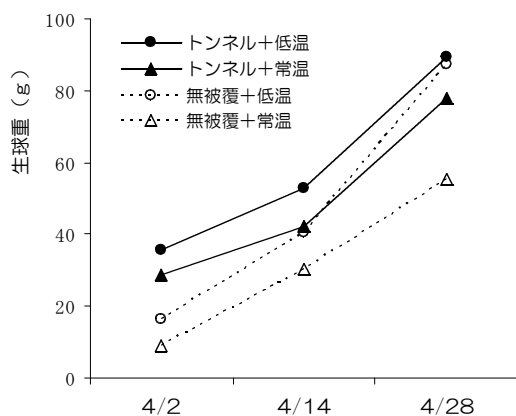


図1 生球重の推移



図2 4月どり生ニンニクの外観